



石巻西高実況中継

～学校の情報や生徒の様子をリアルタイムで家庭に届けます～

平成31年2月6日 第94号
発行者：校長 菅野 定行

授業拝見 ～3年生最後の授業～ SDGs



〈会場は合同講義室〉

3年生の授業は明日で最終となります。今回は、社会科（地理探究・日本史探究合同）の授業を拝見しました。

東松島市はSDGs未来都市（sustainable development goals：持続可能な町づくり）に認定されました。SDGsは2015年9月の国連サミットで採択された2030年を期限とする先進国を含む国際社会全体の17の開発目標です。

将来の町づくりの主役である児童生徒が地域で活躍するためには、高校・大学・自治体・民間が協力して児童生徒を対象に世界動向を疑似体験したり、参加者が家庭や地域で持続可能な活動を横展開することで持続可能な町づくりに近付けるというものです。

今回の授業はSDGsの一環として、西高3年生の社会科の授業に西高の先生方、東松島市の職員の方合わせておよそ50名が生徒役で参加し、平成31年2月4日（月）6・7時間目に行われました。

講師は株式会社HRD研究所谷口ちさ先生、的確に指示をされていました。一人一人が真剣に東松島、日本、そして世界の現在・未来としっかり向き合っており、持続可能な活動を考えるあっという間の2時間業でした。

◇3年3組 阿部 輝 さん

SDGsのカードゲームを使って世界を幸せにするにはどうすればいいかを考えました。私の班は資本金や時間のカードが足りず環境保護

をたくさんするという目標を達成できませんでした。ゲームが終わった後の話し合いでは「経済発展を求めると環境が悪くなるのが現実と似ている」「環境保護にはお金や時間がたくさん必要だ」など現実に結びつけた意見交換ができてとても有意義でした。

我々高校生が世界の幸せのためにできる行動は限られていますが、募金やボランティア、ゴミの分別などの小さな取組を続けていくことで住みやすい地球と幸せな世界に貢献できるのではないかと考えました。

◇3年3組 阿佐野 未夢 さん

SDGsを体験してみてもとても難しいゲームだなと思いました。いくつものグループがあり、事務局にプロジェクトを持って行っても経済ばかりが伸びて環境や社会は全然伸びず、みんなが意識して他を思うことができなければ偏りが生じてしまうと思いました。

今回はゲームだから良かったものの、実際に世界がこのような状態だったら大変な問題になっていたと思います。日本の未来を担うことになる私達高校生ができることをしていけばもっと良い世界になることを実感しました。

◇3年3組 阿部 桃奈 さん

世界が平和になるためには自分達の方ではあまり影響力がないと思っていましたが、この活動を通じて一人一人が他者への思いやりの気持ちを持って行動することで少しでも困っている人達を助けられる事を実感しました。ゲームを通して経済、環境、社会の三つすべてがよくなるというのは時間も費用もかかる大変なことだということを知りやすく学べるとても有意義な活動でした。

